

10 両ダンゴ(ダンゴの共エサ)の作り方

仕掛けやタナなどの基本的なことが分かったところで、いよいよエサを作りましょう。また、毎回同じ状態のエサを作るために、計量カップを使用することをおすすめします。



「パウダーベイトヘラ」で作る両ダンゴ



● パウダーベイトヘラ

適度なネバリがあるのでまるめやすく、エサ付けが簡単です。エサの練り加減やハリ付けの大きさ次第で幅広いタナに使用できます。また、セット釣りのバラケにも対応します



①「パウダーベイトヘラ」を計量カップですり切り5カップ計り、エサボウルなどの容器に入れます



②次に水1カップを加えます



③水を加えたら全体的にムラがないように混ぜます。このとき、手を熊手状に開くと均一に混ぜ合わせることができます



④基エサのできあがり



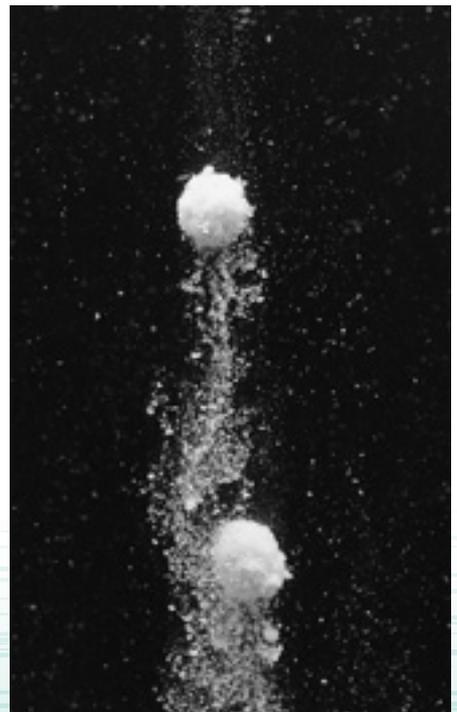
⑤基エサを小分けして、空気を抜くように押し練ります



⑥使う分量のエサを取ります



⑦直径15mmくらいの大きさにまとめ、ハリ付けします



水中ではいっぺんにバラケず、ゆっくりバラケるのが理想的です。

浅ダナで使うとき

●浅ダナ用のエサは、釣り始めは魚を寄せるために角張らせますが、魚が寄ってウキにサワリが出始めたら直径15mmを目安にしていねいにハリ付けします。アタリがあっても釣れないようであれば、手水を打ってエサを軟らかくしてみましょう。

チョーチンで使うとき

●チョーチン用のエサは、基本的に浅ダナ用のエサでOKです。浅ダナよりも深いタナまで持つように、直径20mmを目安に大きめにハリ付けしましょう。エサがタナまで持たないようであれば、基エサを練って持ちをよくします。



エサの手直しの仕方

エサを投入して、ウキになじみ幅が出ないときはエサがしっかりタナまで持っていません。この場合、エサ付けがしっかりできているか確認してください。それでもなじみ幅が出ないときはエサを手直しの必要があります。手順に沿ってエサを手直ししましょう。

アタリがあってもハリ掛かりしないカラツンになってしまうときや、エサを軟らかくしたいときは手水を加えます。

エサを練って持ちをよくする



エサボウルの縁に擦り付けるように数回繰り返します



もうひとつの練り方として、エサを握るように繰り返します

手水を打つ



①エサボウルなどに取った水に手を浸します



②手が十分に濡れている状態、これが手水です



③使っているエサに手水をなじませます



④エサ持ちの状態をキープするために、エサボウルの縁に擦り付けるように数回繰り返します

ONE
POINT
LESSON



宙釣り用両ダンゴのブレンド例

- 浅ダナ用 ●「特S」400cc+「GTS」600cc+水200cc
 ●「パウダーベイトヘラ」600cc+「浅ダナー本」400cc+水200cc
 チョーチン用 ●「グルバラ」400cc+「バラケマツハ」600cc+水200cc
 ●「パウダーベイトヘラ」800cc+「グルバラ」200cc+水200cc